


ぶるま〜ず

雛見沢店へ
ようこそ!!







風薫る五月、
ますますのひぐらし日和と
なりましたが、
皆様いかがお過ごしでしょうか？

最近、綿流し本祭も近いとあってか、
近所の子供が注射器や鉈を
持って走り回っております。
いやはや、この町で祟りが起きない事
を祈るばかりです。

そういえば、祟りと言えばオヤシロ様、
オヤシロ様と言えばブルマですが、
先日探検に行った洞窟で神々しく
輝くブルマを発見してしまいました。

「これは世紀を乗り越えて
性器の大発見だ！！」

と鼻息荒く興奮したボクは、
つついそのフィット感を
直に試してみようと装着

……を試みたのですが、如何せん勇気
が足りなかったもので感想が
かけません。

弱いボクを許してください。

という訳で今回は

ブルマひぐらし本です。

みなさん、れつつぶる～みんぐ！

Team-CAF いのしん

ねえ沙都子、
あんたちよっと、
調子にのりすぎて
るんじゃない？

いつもあんたに
振り回される
悟志君の事、
考えた事ある？

ああ、可愛そうな悟史君。
あんたさえいなければ、
幸せに生活出来た
でしょうに

ふに
ああっ……

ねえ、わかってるの？
悟史君の苦勞……

あっ!!!

まあいーや。
わからないなら体に
教えてあげるよ

クチ……
いつまでたっても小便臭い
からお兄ちゃんを卒業出来
ないんじゃない？
女になるとなにか
変わるかもしれないね



ほら、
私の中の鬼が
目覚めてきちまったよ

あんたを犯れってねえ



ああああああああ、
すごい締め付けだよ。
おちん○ん壊れちゃう

ひあああああ
あああああ



さあ沙都子、
お仕置きの時間だよ

これ、
入るのかしらねえ

ひいっ!!



ひやうううう!!

くけけけけけ
けけけけけ

ひああ、
いや、

んあああ、
ああっ、

ひああああ

ひやあ……

あああああ

ひあ、
ひああああ

ひあああああ
あああああ!!

ビュッ
ビュッ
ビュッ



…

まさか

この程度で終わるなんて、
思ってたないよね？



あ……

ああ……

まだまだ、
お仕置きはこれから
なんだからさ

ビクッ

ひあ、
そこはちがっ……!!

このう〇こ臭いお尻も
悟史君を悩ませていた
原因なのかしら？

スリ

スリ

ねえ？

そんなこと……

本当に汚らわしい子

泣きながらもこんなに
マ〇汁だして、

ちがっ、いたっ、

ひゃ、やめっ……



ひやあ、
お尻さけっ…
さけちやいますわ……あ

やめ、

ひや、

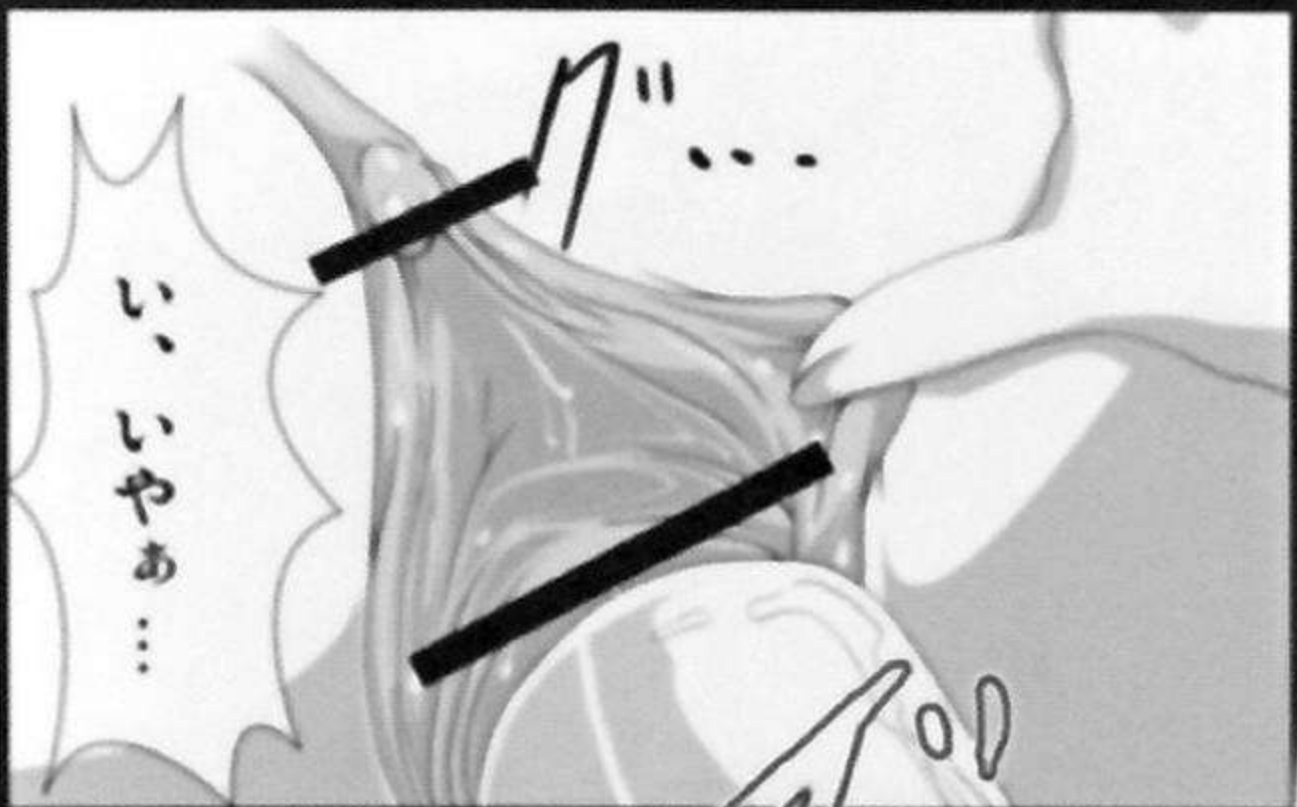
すい、締め付け……

あはは

ひや、
ひやああああああ



そうそう、
こんなものも
あるのよ



い、いやあ...



ひやああああ
ああああ!!



あああああ
あああああ

ああ、ああああ、



これ...

誰のバットか知ってる?

.....





ひあ……

うっ……

ふ……



あぁっ……

んあ、ひあ、

ひああああ

まだまだ……

鳴かせてあげる



ガッ
んはあ
ああああああ!!

ひゃあああ
ああああ!!





まだまだ、

まだ終わらないんだから



ん……

んぐ……んあ



あなたは、呪われているもの

はは……

あはは



だって、

あなたは
悟史君を不幸にした

・夜。学校、教室

「くっくくく、無駄な抵抗は辞めろよ北条」

もう誰もいない筈の教室に、若い男の下劣な声がこだまする。名を富田。BB団雛見沢支部、営業部部长。

「いや、富田さん、やめてくださいまし！」

「北条の忘れ物はこれかなあ？」

そう言う富田はズボンを脱いで、自分の『履いている』物を沙都子に見せた。そう、それは紺色のブルマ。

「いやあああああ！」

「北条のブルマ、気持ちいいなあ。ついつい汚しちゃうとこだったよ。おっと、もっとも今から汚すんだけどね」

そう言う富田にジリジリと近付いていく富田。
と——その時。

「待つんだよ富田君！」

「——な、誰だ！」

現れたのは、体操服を着てファイティングポーズをした少女。下にはエンジ色のブルマを履いている。

「天知る地知る人が知る——雛見沢のブルマ戦士『竜宮レナ』」

「お呼びとあらば、即誕生しちゃうよ☆」

「——ッ！！まさかそれはっ、オヤシロブルマ！」

「その昔ブルマを愛した兵達が、その執念を込めてつくりあげた——なんでそんなものをっ！」

「……かあいいものを苛める人は許さないんだな、だな？（裸の大将風に）」

「例えそれが、立ち絵無しのおサビキャラであったとしても！」

そう言う富田、『ビシィ』と富田に人差し指を突きつけるレナ。

「行くよ！」

そう掛け声を出すとともに、レナはまず、ブルマの裾から自分の手を突っ込み、自慰をはじめた。

「な……レナさん、何を！」

「いいの……沙都子ちゃん……はううう……もつと見てえ」

ブルマを履いた時点で、既に又ルナルになったレナの〇んこ。指を突っ込んで、さらに濃厚な蜜を垂らす。

「うう……はあっ……くうっ……」

「レナさん……そんな激しく指を突っ込んで……うう」

それを見て、沙都子の体も火照りはじめる。いや、元々火照っていたのだ、富田の精液を見た、あの時から。

「わたくしも……」

つられて沙都子も自慰をはじめた。そのまま倒れこみ、お尻の穴に自分の指を突っ込む沙都子。沙都子のお尻の穴は小さく、指は細い。



「……………」

そして、それに見とれる富田。



「あー！ しまったー！」

その時富田は思い出した。伝説と言われたオヤシロブルマのその力。それが、どうやって発揮されるのかを。……だが、遅い。



「ひあつ、ひあうー！ うあああああああー！」

レナはチャージを完了し、ブルミングのポーズに入る。ブルマをまくり陰部を露出させ、両肘を地面につきブリッジのような体勢。そして、露出された陰部を富田の方に向け、そこから――。



「ブルマレインボウ！」

黄色い液体を勢い良く放出した。その液体は富田の目元に命中――目におしっこをかけられた富田は視界を奪われる。



「うわああああ」



「ああ、目が、目がああああー！」



「そして――」

近くにあった電柱にブルマの袖をひっかけて、それを軸にグルグルと大きく回転――ひきちぎれそうなまでに張ったブルマのゴムの反動力を利用して、レナは大きな加速をつけた。



「ブルマーハンマーー！」

ブルマの力を利用した強いタックルが、富田をとらえる。



「うわああああああ。ビックブルマー様、万歳！」

ボタン。富田は倒れた。



「……………」



「沙都子ちゃん。怪我は無い？」



「……大丈夫ですわ……それよリレナさん、その格好は……」



「えっとね、話せば長くなるんですけど……」



「学校からの帰り道に、可愛いブルマを拾ってね」



「お持ち帰りしたら、こうなっちゃったの」



「レナさん、全然長くないですわ……」

・BB団、秘密基地



「富田君が破れた？」



「はい……俺がいればこんな事にはならなかったんでしょうけど……」



「ふむ……オヤシロブルマー、ですか」

若い白衣を着た男がそう呟く。対峙する人物は、中学生くらいにも見えた。



「それを手に入れる事が出来れば、我等の野望を達したも同然かと」



「出来るのですか？」



「お任せください。俺にも『力』がありますから」

・学校、放課後。教室にて



「沙都子ちゃん、昨日は災難だったね」



「本当ですわ。まったく、富田さんがあんな人だったなんて——」



「人間見かけによらないからねえ。ああでも、今思えば根暗な顔してたわね。髭眼鏡だしね」



「それは身内ネタなのですよ。このサークルのホームページを見て無いとわからないネタなのです」



「このサークルって何？」



「さあ、ボクにはわからないのですよ。みい☆」



「——そう言えば最近、圭一君学校に来ないね、どうしたんだろ」



「さあ。『俺は雑見沢のイチローになる』とか言いながら、バット振ってる所までは見たけど……」



「まあ、いない人の事考えてもしようがありませんわ。今日も部活をはじめちゃいましょう」



「とか何とか言って、昨日圭ちゃんの家にお見舞い行ってたのは誰だっけ??」



「うるさいですわ！ 偶々家の前を通りかかったんで立ち寄っただけですよ。居ませんでしたけど」



「あれ、圭ちゃん家にもいなかったんだ？」



「本当に、なにしてるんだらうね」



「——よう、久しぶりだな」



「みい。噂をすれば、なんとやらなのです」



「圭一君、みんな心配してたんだよ？ どうしてたの??」



「——どうしてたの、か。まずはこれを見ろ！」

そう言って圭一は、おもむろにズボンを脱ぎはじめた。



「きゃっ！ な、なにやってるの圭ちゃん！」



「汚らわしいものをわたくしに見せないでくださいまし！」



「あ、圭一君——それは——」

皆が目を背ける中、レナは圭一の履いているそれを見た。そう、紺色のブルマを。



「ふふふ……レナ、お前の持っているブルマーを渡して貰おうか」
「え……？ 圭一君……」
「そんな……」

「見損ないましたわ圭一さん！」

「変態組織の一味でしたなんて！」

「変態じゃないぞ！ BB団は、ブルマの素晴らしさを世に伝えるための、立派な組織だ！」

「……変態じゃない」

「変態なのですよ」

「とにかくだ。レナ、いいからそのブルマを俺に寄越せ」

「……駄目だよ圭一君……そんなの」

「だったら、力づくで奪うまでだ」

圭一が力を解放する。

突如、黄色い輝きを発するブルマ。

「いくぞ！ てええりゃあああ！」

圭一が放つ、巨大なエネルギーの塊。それが壁にぶつかって、四人を巻き込んで爆発した。
「……きやあああああああ」



「みんな！」

「余所見してる暇はないぜレナ」

圭一の鋭いタックルがレナを襲う。レナ、それをマトモにくらい、教室の壁に叩き付けられた

「どうしたレナ。オヤシロブルマの力はその程度か？ 終わりならこれ、貰っていくぞ」

「おっと、その前にちよつと楽しんでいくべきかもしれないな。ここはクールにいきましょうぜ、前原圭一」

レナのブルマに圭一の手がかかる。

ブルマ特有の、ザラザラとした質感を楽しみながら、圭一はレナの陰部を擦っていた。

「いやあッ——駄目っ！」

「やっぱブルマは、擦り付けてこそだよな？ なあ？」

「いやあああああ！ 圭一君、ち○ぽ擦り付けないでええ！」



圭一は一物を出し、それをレナのお尻に擦り付ける。先端からは粘っこい液が、糸を引いていた。

「流石オヤシロブルマーだな……質感も極上だ」

「あふう……駄目、圭一君……そんな事しちや、駄目ええ」

そう言いながらもレナは圭一を押し倒し、69の体勢に入る。圭一のち○こをなぞる舌。そして、レナのあそこを這う舌。

「……嫌なのか気持ちいいのか、どっちなんだ」

「気持ちいいよう。圭一君の、とつても気持ちいいよう！」

「レナのお○んこ、グチュグチュだ。ブルマがこんなに濡れてる」

「いやっ……そんな事……んぐっ」

必死に圭一のモノにむしゃぶりつくレナ。

「どうだ、美味しいか？」

「うん……圭一君のち○ぽ、すっごく美味しいよお」

レナはそのまま体をスライドさせて、自分の陰部を圭一のモノに押し当てた。そして——

Kちゃん これ……

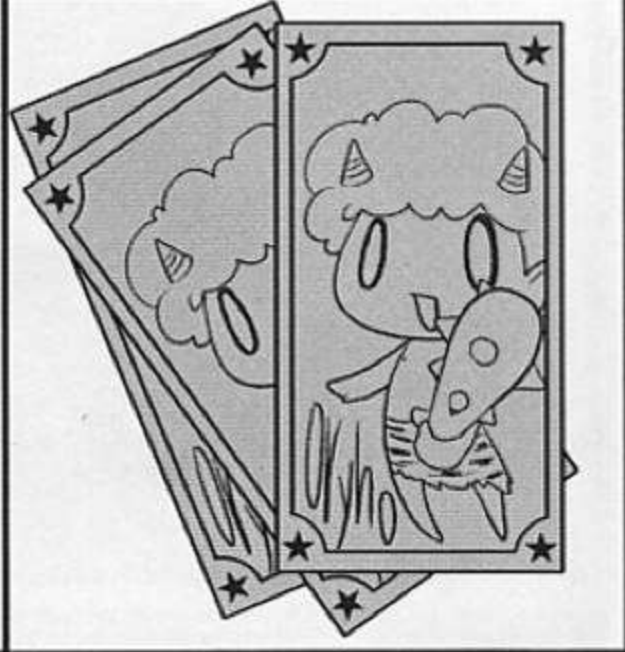
はっ☆

間違いない！
オリヨウカードや！

作・いのしん
画・椋杏

カードマスター魅音

うちの倉庫に封印されていた魔法の拷問カードセット『オリヨウカード』の封印を偶然解いちゃってさあ大変



まよ

私……園崎魅音は普通の中学生……だった筈なんだけど

突然転入してきた自称K.O.O.Lな精霊Kちゃんとともに再びオリヨウカードを元の姿に戻す為カードマスター魅音に変身するのだ

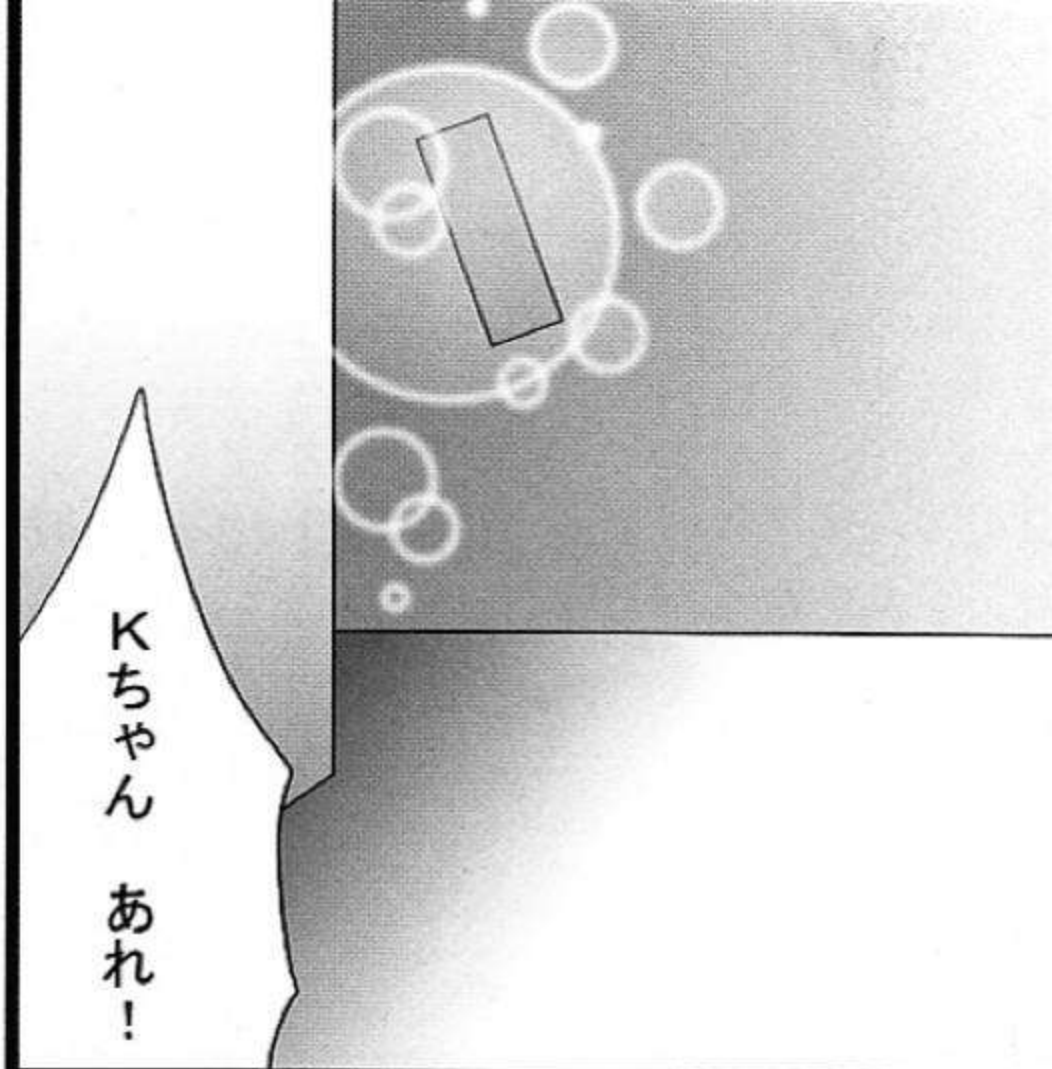


前原
わいは関東から来たときみせかけて
関西人なんや
Kちゃんってよんでな



魅音あれはブル魔のカードや！

あれに魅了されてしまったら
強制的に体操服姿に
なって発情してしまうんや！



Kちゃん あれ！



ああっ！

きゃあっ……



ほ ほえええ
そんな事になったら

オジサン困っちゃうよ

わいはそんな魅音が
見たい



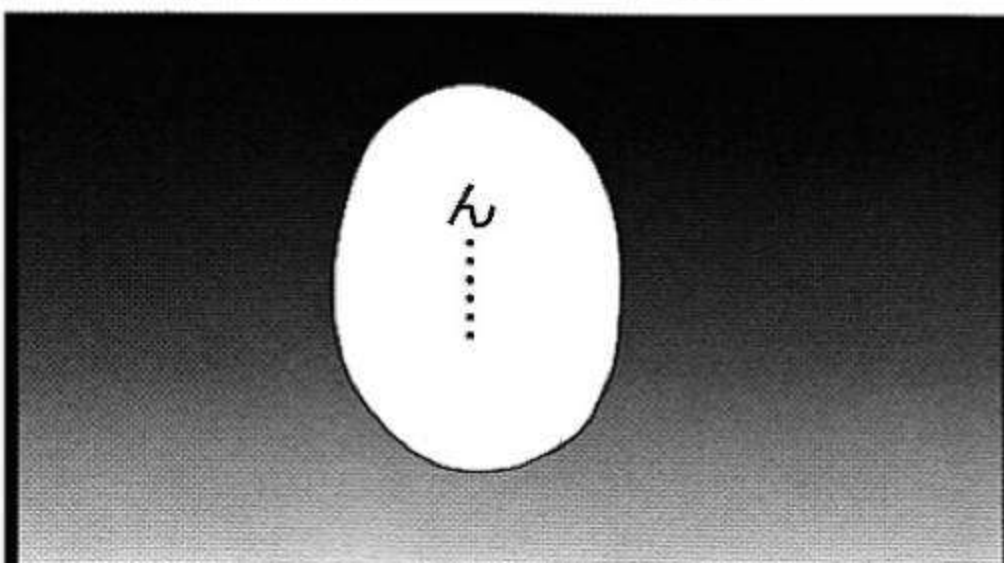
駄目だよK君
ブルマの魅いちちゃんは

はう〜

私がおお
お持ち帰り☆

ガミッ

やめろレナ
こんな事やってたら



ん……



なにっ……これっ……
ちよっ……レナっ……!

駄目だよ魅いちちゃん
大人しくしないと



え……っ??

レナ



ね?

あ
あああ!



大丈夫だよ魅いちちゃん

これ カードの力だから

私なんて
……発情しすぎて

チ○コ生えちやった…



ぬき

ポレッ

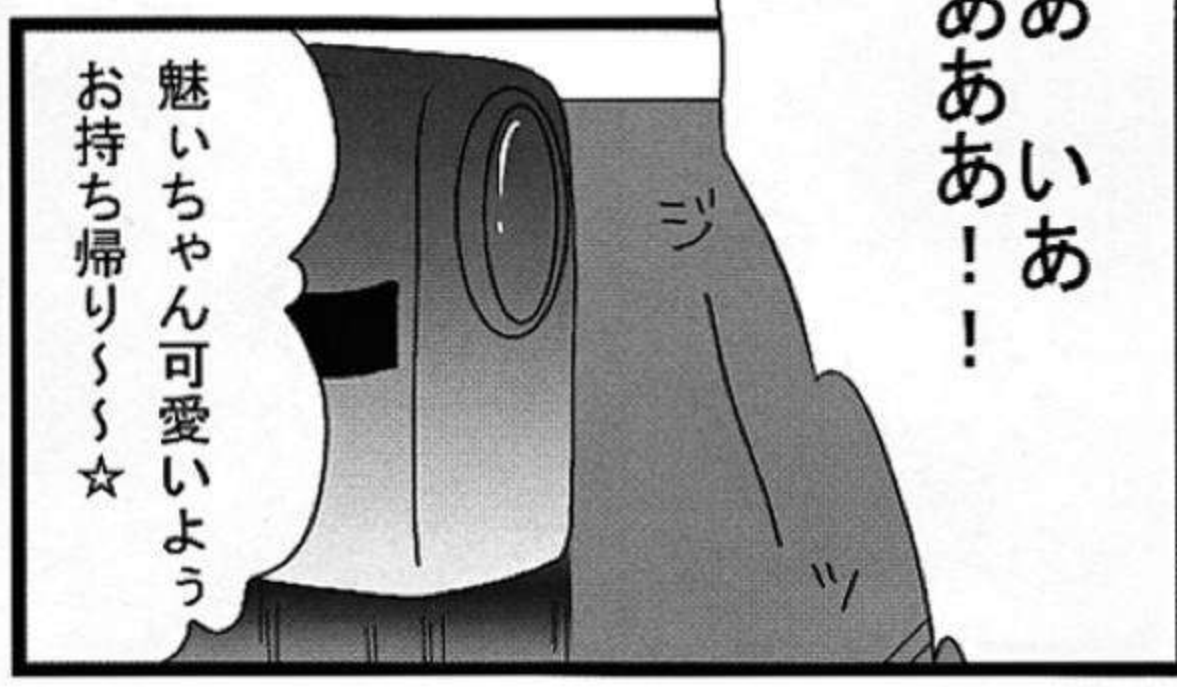
……え？



ちよ……レナ……何を



ひあああ
あああああ！



魅いちちゃん可愛いよう
お持ち帰り☆☆

あ 魅いちちゃん
気持ちいいよおっ

レナ レナッ！

駄目えっ レナあ……！

私——もうっ……

魅いちちゃん
私もお……もう——っ

カリキョッ

カリキョッ

あああああっ！

ジュジュ

ジュジュ

あああっ！

あ……れ……



とりあえず
顔を洗いたいかな

そうだね



元に戻ってる…

本当だ…



はっ！カードはズニニ…



.....



おしまっ☆



はいてるー！



使用後。

お誘い頂き、更には好き勝手させて頂き、
ありがとうございます。
書いてて楽しかったです(笑) にくばなれ

後書き

こんにちは〇こ、いのしんです。
詩音×沙都子なひぐらしブルマ本、
如何だったでしょうか？
目明し編をプレイした日から、
『次に本を出すなら詩音攻め沙都子
受けだよな！』
ってな感じでしたので、このような
本を出す事が出来て大変嬉しく思っ
ております。ブルマですし。

どうでもいい話ですが、雛見沢の学
校は体操服自由にも関わらず
ちようちんブルマいないんですよね。
納得いきません！！
修正してください！！

Team-CAF いのしん

こんにちは、最近ますます影が薄く
なってる気がします。オオハシです。
というか、いのしんの後に後書き書
くにしても書くこと無いよ…（汗

まあ、あれですよ。

『レナにはち〇こがよく似合う。』

※最近宙出版様の方でニョゴニョゴ
とアンソロ漫画など描かせて貰っ
ています。
気が向いたときにでも目を通して
貰えると嬉しいです♪

Team-CAF オオハシ

ゲスト様

● 椎杏さん

今回は参加させていただいてありがとうございます☆
原作はいのしんさんをお願いして、私は絵だけ描いたの
ですが難しかったです(>ω<*)
まさか最萌のさくらとひぐらしを掛けることになるとは！
どちらも大好きな作品なので楽しかったです☆

● にくばなれさん

お誘い頂き、更には好き勝手させて頂き、ありがとうございます。
書いてて楽しかったです（笑

奥付

平成17年5月3日発行

製作

Team-CAF(<http://team-caf.com/>)

企画・コンテ・SS・雑務

いのしん

漫画・イラスト・レイアウト

オオハシ

ゲスト

椎杏 さん

にくぼなれ さん

マジさんくすですよー！！

印刷所

ねこのしっぽ 様

この本を手にとってくださった皆様へ、精一杯の「ありがとう」を。

ぶるま〜ず
雛見沢店へ
ようこそ!!



Scanner: Sabre.Anime Scan Number: #46

Site: www.sabreanime.org, www.exhentai.org/uploader/
SXIndy27

Book/Anthology Requests: SXIndy27 on the E-Hentai forums

Donations for more scans: www.sabreanime.org

ぶるま~ず

離見沢店へ
ようこそ!!

